ほのぼの

第４９号
平成３０年
７月

発　　行
信行寺門信徒会
神戸市須磨区戎町１－２－３
TEL.０７８－７３２－５２０９

いのちは　いのちに支えられている

住　職

一人で生きている者はこの世にいない。誰の世話にもならず、一人で生活できている者はいません。それなのに私たちは自分で働き、自分の力で食べている。だから誰にも迷惑もかけていないし、誰にも世話になっていないと、錯覚するようです。

私が今ここにいるのは、生んでくれた親がいたからです。その親にも親がいました。さらに親の親にも親がいます。さらにこれをたどっていきますと、億単位を超える「いのち」のつながりがあることになります。これらを総称して「先祖」とよびます。遇ったことも話したことがなくても「先祖」はいたのです。その中の誰か一人でも欠けていれば、私は今ここに存在していません。親が護り育ててくれていなければ生きていません。

私たちは毎日食事をします。仕事をしてもしなくても。食事において「他のいのち」をいただいています。一日三度として一年で約千百回、八十年生きるとして八万八千回、植物のいのち・動物のいのちを口に入れて、今ここに生きている。多くの「いのち」によって現に生かしてもらっている事実があります。これをどう受け止めるのかが問題です。人間だから当然だと見るか。「ありがたいこと」と受け止めるか。さらに、それだけのいのちをもらってわが身を保ち生きておりながら、それに相応しい人生をおくっていないわが身を恥じる受け止め方もあると思います。

ある愚者の話です。長者が見事な三階建ての家を建てました。これを見て自分も三階建ての家が欲しくなり建てようと大工さんに頼みました。大工さんは、まず基礎工事から始め、一階を作り、次いで二階を作り、その上に三階を作ろうとしていました。しかし、頼んだ愚人は、「あまりお金がないから一階も二階もいらない。三階だけ建ててください」と言ったそうです。それを聞いた人々は「下の一階二階なしで、どうして三階が建てられますか」と笑ったそうです。

私たちは、これと同じような錯覚をしていないでしょうか。私は今、足で立っています。これを「私は自分の足で立っている」と表現しますが、その足を支えているのは床です。床は柱が支えている。柱を支えているのは基礎の部分です。基礎を支えているのは大地です。私は空中に立っているのではありません。大地の上に立っているのです。大地が見えても見えなくても。

因と縁がなければ果は生じない、というのが仏さまが説かれた真実です。特に「諸の縁によっている」ことが強調されています。目に見えるもの見えないもの、阿弥陀さまをはじめ、多くの支えによって今の私があります。一人で生きているのではありません。人生のすべてにおいてお互いが支え合って生きているのです。

南無阿弥陀仏

親鸞聖人のご和讃を歌うコンサート出演

坊　守

この度、親鸞聖人のご和讃を歌うという有難い御縁を頂きました。しかも、それを作曲された名古屋在住の音楽家平田聖子先生による直々のご指導を受けて、京都コンサート大ホールでプロの伴奏による演奏会に出演できました。

信行寺からは十五名参加しました。全国より集まった人は三百余名もおり、親鸞聖人のご和讃を大合唱しました。私達は森本順子先生のご指導のもと半年余りの練習後、本番を迎えました。六曲ほとんど暗譜で歌う、かなりハードルの高いものでした。

親鸞聖人のお心が音によって表現され、南無阿弥陀仏の大悲のお心がメロディにのって私の口から勿体なくも次々と湧き出し、ホールいっぱいに念仏が響き渡っていくのに我を忘れるような感動を覚えました。四方八方から阿弥陀さまのお声が聞こえてきて、その中に私が抱き込まれていきました。阿弥陀さまに遇えた幸せ、生きている喜びを実感しました。音楽が創り出す世界がこんなにも感動を呼び起こすことに改めて驚嘆しています。

多くの同朋と一緒に歌えた幸せを涙が出るほどうれしく思いました。当日は思いもよらず、こんなにも大きな声が出ているのは自分の力ではない。大いなるみ手に導かれて歌えていることも知らされました。

私が歌ったご和讃の中で一番好きだったのは、「無慚無愧のこの身にてまことの心はなけれども、弥陀の回向のみ名なれば功徳は十方にみちたもう」です。

罪深い誠の心のない私に阿弥陀仏は回向くださいました。私だけでなくすべての方々に満たしてくださる。こんなうれしいことはありません。

演奏会の最後にあたり、出演者全員声を張り上げ、大合唱で歌い終わりました。こんな私が親鸞さまのご和讃を歌わせて頂く幸せな時間がもてたことに感謝致します。

南無阿弥陀仏

写経のすすめ

副住職

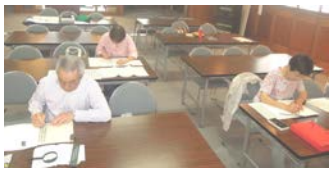
かつては印刷技術がなかったので、仏法を弘めるためにはお経を書写するしかありませんでした。奈良時代には官立の写経所が設けられ、朝から晩まで写経する職員がいました。そして平安時代になると、個人的に祈願のために写経することが多くなります。厳島神社に納経された「平家納経」は有名です。

また、自分が仏法を学ぶためには経典を書写することが大変重要でした。親鸞聖人が法然上人から選択本願念仏集を書写することを許されたエピソードがありますが、まさに教えを学ぶためには自らその経文を書写しなければならなかったのです。現代のように書店などで本を買って学ぶことができるのはここ数十年のことなのです。

活字があふれる現代社会で、手紙や年賀状を手書きする人が大変少なくなっています。一方で、心のリラクゼーションのために写経をするという人が増えているようです。

信行寺では、もとは仏道修行のひとつである写経を広く一般の人が親しめるような「写経の会」を月一回開いています。忙しいストレス社会ともいわれる現代社会において、心休まる時間を持つことは大切なことです。字をキレイに書こうとする必要はありません。リラックスして無心に書写するという行為そのものが大切なのであって一般的な書道をすることとは違います。

また、写経をすると脳が活性化するというデータが、日本の脳機能研究の第一人者川島隆太東北大学教授の研究結果として発表されており、認知症の改善アイテムとして今後注目されそうです。



毎月第二月曜日十時～十一時半
信行寺礼拝堂で写経の会を開いています。
ご一緒に体験されませんか？
お待ちしております。

花まつり

四月三日（火）、『花まつり』を勤めました。いたやど保育園の園児さん、門信徒のお子さんなどが参加しました。献花献灯に続いて、映像でお釈迦様のお話をしました。そして、昔話「花さき山」のペープサート、善いことをする尊さや我慢することの強さを話しました。園児さんは、可愛い歌を二曲披露してくれました。最後に、玉入れや釣り、輪投げのゲームをして、手作りのささやかな景品とお菓子をお土産に渡しました。笑顔と笑い声が本堂に響き、「また来年も来るね！」と元気な園児さん達も。門信徒の皆様のご協力のお陰で和やかに春らしいひとときを過ごしました。

また、二十年前に花まつりに参加していたお子さんが、ママとなって、子供を連れて参加してくれました。「懐かしい、子供にも経験させたいです！」と思っていてくれていることに励まされます。

第十七回　門信徒会定期総会

平成三十年四月二十八日（土）信行寺門信徒会定期総会が行われました。

新田泰三会長挨拶の後、平成二十九年度事業報告、会計報告がありました。三十年度事業計画案、会計予算案の質疑応答があり、承認されました。本山伝灯奉告法要があり、旧跡参拝旅行は実施しませんでした。「みやび会コーラス部」解散の報告もありました。

その後、門信徒会員の北川章子さんのマジックショーがありました。手作り衣装も凝っており、マジックも熱演で、皆さんの笑いと驚きをさそいました。

多田清子さん手作りの陶器の小皿が寄贈され参加者皆さまにお配りいたしました。

今年度も門信徒会の各行事に参加のほどよろしくお願いします。

法語カレンダー

今回は、本願寺出版社の法語カレンダー、七月の言葉の説明をします。

雑毒の善をもって
かの浄土に回向する
これ必ず不可なり

煩悩を持ったままでは、
いくら善行に励んでも
決して往生できない

これは、親鸞聖人の「浄土文類聚鈔」にある言葉です。

「雑毒の善」とは、毒の雑ざった善という意味です。ここでの「毒」は、煩悩を指しています。私達の煩悩は、決して無くなるものではありません。善は悪に対する言葉ですから善に毒が雑じることに私たちは気づきにくいものです。自分に無いものを欲しがり、自分が嫌うものを遠ざけ、自分の意に沿わないものへ腹を立てるのが、私達の現実です。人間は、本能と理性と感性で善悪の判断をしています。それは他に対しては厳しく働きますが、自分に対しては非常に甘いものです。そうであるなら、私達が行う善も全て、「雑毒」なのではないでしょうか？

そして、「雑毒の善」に励んだとしても、決して往生できないと親鸞聖人はおっしゃっているのです。それが、「これ必ず不可なり」という言葉です。

昔、殿さまの食事の「毒味」する役職があったようです。毒がはいっていれば殿さまにはさしあげられません。同じように雑毒の善はお浄土の阿弥陀さまに回向することはできません。だから阿弥陀さまは私たちを救いとる願いを起こされ、これを既に成就し、阿弥陀さまの方から私たちに南無阿弥陀仏の名号を回向してくださっているのです。

必ず不可である私達の現実を担い、浄土に往生させようとするのが、阿弥陀仏なのです。

日頃の疑問を考えよう

Q いつ亡くなった人が初盆になるのですか？

故人が亡くなってから初めて迎えるお盆を初盆といいます。初めて迎えるお盆といっても、故人の四十九日法要を超えて、初のお盆ということになります。例えば、お盆の数日前に亡くなった場合には翌年が初盆になりますし、場合によっては、四十九日法要を終えてすぐに初盆という事もあります。

Q お盆には、何か特別な飾りなどが必要なのですか？

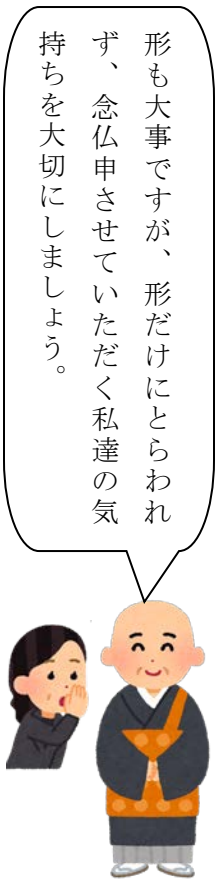
結論からいうといつも通りで特別に用意するものはありません。浄土真宗では、お盆だからといって、盆提灯を飾ったり、先祖の霊のために迎え火や送り火を焚いたり、精霊棚、精霊馬を用意したりしません。（地域的なお盆の風習もありますので、それはそれで各家庭の方法があってよいと思います。）浄土真宗のお盆はあの世から帰ってくるご先祖を供養する日ではなく、ご先祖への感謝とお念仏の教えを聞き慶ぶ日としてください。

Q なぜ提灯などを用意しないのでしょうか？

「ほのぼの４６号」にも書きましたが、先祖の霊が帰って来るという教えは、もともと仏教にはありません。ですから、先祖の霊を迎えるような仏事は存在しないのです。

Q お供えは何をしたらいいでしょうか？

お仏壇へのお供えは、沢山ありますが、食べ物のお供えとしては、お仏飯（ぶっぱん）が一番重んじられています。お仏飯・五具足（三具足）・打敷・お餅・お菓子・果物などを用意できればよいでしょう。そして、食べ物をお仏壇へお供えする私達の心情としては、「阿弥陀様やご先祖にも食べていただく」といった趣旨でお供えしがちですが、本来のお供えの意味はそうではありません。主食となっている「ご飯」をはじめ、「私達自身」が生きていく上で欠かせない、潤いをくれる「食の代表」としてお仏壇へお供えし、命の恵みを阿弥陀様の恵みとして心から喜び、食に対して感謝するという気持ちで食べ物をお仏壇へお供えして、お参りするのです。



信行寺行事予定とご案内

✧本堂納骨お盆法要

八月十六日（木）

午後二時より　本堂にて

✧夏期特別法座

八月十八日（土）

午前十一時から午後三時

信行寺　本堂・礼拝堂にて

✧秋の彼岸法要

九月二十二日（土）佐々木　義英　先生

＊法話の後、お斎をご一緒に

二十三日（日）　住　職

両日とも午後二時より　本堂にて

✧西大谷納骨参拝

十月二十一日（日）

バスでご一緒いたしますので、ご参加希望の方はお早めにお寺にお問い合わせください。

編集後記

五月の「定例聞法の集い」で、副住職の秀爾さんが「幸せとは何でしょうか。」ということについてお話されました。そして世界で最も貧しい大統領と呼ばれた、ウルグアイの第四〇代大統領ホセ・ムヒカさんのリオ会議でのスピーチを紹介してくださいました。その中に『貧乏な人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足できない人のことだ。』と言う言葉がありました。

今、日本で自分は幸せだと感じている人が多い所は一位福井県、二位富山県、三位石川県だそうです。北陸の三県に多いのはどうしてでしょう？ご存知のようにこの地域は古くから浄土真宗の教えが深く浸透しているところですね。『知足は第一の富』、足るを知ることで私たちの心は安堵し、今の幸せに気付くことができるのではないでしょうか、と教えてくださいました。

毎月第三土曜日の午後二時からの「定例聞法の集い」に一人でも多くの方に来ていただき、親鸞様の教えを学んでいけたらと願っております。

多田　清子

表紙と二ページ目の絵は、泉井玲子さんが描かれた絵画です。